

「青い芝」四周年記念特別号

昭和三十六年十月三十日  
昭和三十六年十一月一日

印刷  
発行

編集者 中村 敏 一

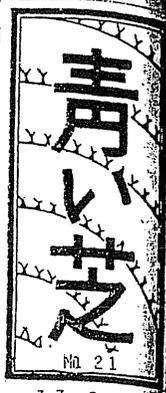
発行所 青い芝の会

東京都大田区雪ヶ谷町七五二・山北方  
T 551 荏原 5094

印刷所 有限会社 オール事務器

東京都大田区調布鶴の木町三一  
T 551 池上 3128  
六二四八

頒布価 五十円  
(但し会費は無料)



37. 2. 15

印刷所 大田区調布鶴の木町三一  
オール事務器 印刷部  
青い芝の会  
中村 敏 一

我々はかく考える

前号で報告したように、本会今年度の活動方針の一つとして、厚生省その他関係機関に対して我々の実情を伝え、要望を訴え、その対策の早急な実現を働きかけると、ということを決めた。  
では、その我々の要望とは何か、それは個人々々によつて様々なものがあろうが、やはり大きく云つて二つのこと、即ち、庇護的作業所の設置と、重度障害者の収容保護施設の設立である。  
我々は、身体が不自由であつても、働けるかぎりはおく迄働いていきたい。それはそのことが人間の幸福にとつて不可欠の条件だからである。しかし、現実はどうか、身障者は一般にみなそうであるが、殊に聾性マヒ者の場合、仕事をしつていく上で色々と制約があつて、一般の産業界に任じていくことは、きわめて難しい。と云つても、少数乍ら、就職或いは自営している人もいろいろので、

性マヒ者だから職にはつけないと一概に考えるのは正しくない。だが、障害の程度のある者を含めてやはり多くの聾性マヒ者にとつては職がないというのは、かくれもない事である。そして、それは考えてみれば恐いことである。職がない従つて収入がない、ではどうやつて生活していくのか。現在年金は重度の人に、どうしている生活費には足りないほど支給されていくにすぎない。結局、親兄弟の世話によつていくより他にないが、それによつて生活する者はいないであらう。第一、長きに亘つてそれはかなわぬことなのである。

そこで、いさゝかたりとも働ける人に対しては、特別な形の作業所……庇護的作業所がどうしても必要になつてくる。即ち、そこでは選ばれたところの本業生産的な仕事(その製品は一般市場に売出される)に従事する。そして、精一杯に

る。で、それに甘えてはいけなから、このところも国家的に補助してもらつた。このことは、まだ研究しなければならぬ点が多々あろうが、云わば保護雇用と云つてつうな、そういう制度や施設がぜひ必要なことではたしかであり、その早急な実現が切に望まれるのである。そして、それによつて一般の職につけたいような多くの聾性マヒ者も希望や生甲斐を見出すことだろう。

ところで、我々の間にはそういう施設ですら働くことのできない、多くのことに人手を要する障害の重い人も少なくない。そういう人達にとつては、親が年老い、そして世を去つた後、誰に面倒をみてもらえぬのかは殊の外切実な問題である。夫々に家庭をもつた兄弟にみてもらうことは決して問題なしにすむことではない。そこで重度障害者のための収容保護施設の設立が叫ばれねばならない。もちろん収容、保護と云つても、言葉は悪いが「かいごろし」であつてはならず、人間としての権利を守り、幸福を追求せんがためのものであり、そのことは基本的に大事なことである。そして、その上に立つて、どんなに障害の重い人でも、終生誰か気がねなく安心して暮らしていけることが考えられねばならない。先日の新聞に、母一人子一人の身体の不自由

脳性麻痺者の更生問題

伊藤 宏

身体障害者に対する世間の理解は単なる同情ではなく客観的に尊敬なる人間としての理解が必要であることは論をまたないが、このような世間の理解と同時にそれにこたえ得る尊敬なる人間としての自己を客観的にながめ得る自分に障害者自身もまた成長しなければならぬと思う。こういうことを一応前提として認め得られるようになったとしても尚障害者の更生という立場から見ても問題の残るものは三級以上のCP障害の人達の処遇である。センターにおける私の歩んだ五年間は色々な意味においてCP問題に対する検討の時節であった。先進諸国の文献に記載された数字が正しいのか、それとも我々同僚の意欲によつて試みようとする色々な手段が或いは一歩新しい分野を開拓し得るのではないかと。

Glick さん

然し、職場で働くことは人間の幸福に最も重要なことである。殆んど成功感の味を知らず、特殊なタイプの人柄として分類されその家族や友人や社会から異つたものとみなされている人々にとつて仕事をすることがは体が不自由であるといふことよりも、もっと重要なものとして、それは「ヒューマン・ウーマン」の個性小

児童障害者の研究報告の中の一節にあるがこの欲求を満足せしめるための努力を払つてきた我々もデンマークにおける五〇〇例の次の数字を妥当と認めざるを得なくなつたのである。我々のセンターでの実績も最初の選択の上に立つたための多少の多の向上はあつたとしても大勢に変化は認められないのである。

職業	例(調査)	
	見	完備
無職	319	63.8
無職	5	1.6
無職	18	3.6
無職	3	0.6
無職	5	1.0
無職	7	1.4
無職	25	5.0
無職	37	7.4
無職	22	4.4
無職	34	6.8
無職	18	3.6
無職	4	0.8
無職	500	

以上の如くであつて、社会保障制度の完備したといわれる地域でなお六三・八の無職者をかゝえているのである。これらの人達に対する社会保障の処遇は現在の更生指導作業の枠内では考えられ得ない問題であつて、別途の公的処遇を必要とすると考えるのが妥当なようである。収容施設の処遇以外によい考えが浮ばないのが現状である。皆さん自身のよい考えを発表していただきたいと思う。

(国立身体障害者更生指導所指導課長)

会員消息

山北 厚君 不二子さん  
一月一日付朝日新聞の「わたしの春」に、育て書之喜の愛児誕生という見出しで登場。尚、不二子さんは一月二五三時二〇分より三〇分間、自作の短歌と共にドラマ形式で北海道放送局の番組に出られました。

柳下明之君  
オンタイプサービス社に御就職。仕事の内容はテープ録音の筆記。

谷岡 久君  
昨年十月御幸福な結婚生活にお入りになりました。

酒井 仁君  
大東学園病院から東京愛慈会病院へお移りになりました。

山本安雄君  
身体障害者製作による「美術工芸秀作品展 身会」に鉄工芸を御出品

城南支部例会報告

日時 二月二十五日 午後二時〜四時  
場所 青い芝 世田谷  
会費 五十円

尚、当日は姫屋センターの田口先生がおいで下さいます。先生はこの程ヨーロッパへ御旅行なさいますので、私達の希望を伝え、お帰りの節いろいろお書きしたいと思ひます。先生に何かお尋ねしたいことを御用意の上御参集下さい。

- 城南支部長 岡本吉司
- 中央支部長 山口 豊
- 城西支部長 石橋玲二

中央・城西クリスマス例会

十二月二十三日、大槻さんのお宅で、中央支部、城西支部合同のクリスマス例会がおこなわれた。三十人程の人々があつまり、文部省提供のイギリスのリハビリテーション映画、町のケースワーカーとして有名な村の記録映画、それに御好意の手品等のアトラクション等を楽しみ六時頃散会した。

I 記

三十六年度最後の支部例会は十二月十七日、品川区大井の渡辺澄江さん宅に賛助会員の野崎、羽太、上さん、それに他支部の有志も混えて参会者十五人、終始盛況のうちに行われた。

先ず賛助会員の方から自己紹介をして頂き、会員の自己紹介は司会の機が代つてやったのだがとんだ珍紹介も出てしまい、一同大笑いであつた。続いて和田君より去る十一月の役員会報告が有り、その中の山北会長提案の託児所(保育)設立の案について討論、いろいろと意見を交換し合つた。その結果矢張りもつと慎重に役員会で検討しなければならぬ問題であると思つた。更に野崎さんより本会の実状をもつと強く政府諸機関に訴えるため陳情、嘆願に御尽力下さる旨の御発言に続き、障害者団体同志がしつかりと社会連帯を構成しなければならぬ、とお話しが有り非常に心強いものを感じながら午後五時過ぎ各自それぞれ想いをめぐらしながら散会した。

最後に心良く会場を提供して下さいました渡辺さん始め御一家の皆様へ厚く感謝申上げます。

(R・O記)

一月十四日、本会慣例の全支部合同例会が世田谷駅に八人近い会員参加の下におこなわれた。当日は民謡、軽音楽などの奉仕もあつて賑やかな、かつ楽しい一日だつた。それはそれとして、気づいたことを二のべたいと思う。

まず第一は時間の厳守ということ、これは今まではゆるゆるの都合の都合に口がすつたままの趣言つてきたことだが、相変らず青い芝時間というのか、ちつとも守れない点、もう一度各自反省していただきたいと思う。

さらに第二として集団のさいのエチケットにかけていることを言いたい。せつかく奉仕の人々が真心こめて演じていて下さるのに、会員の方ではガヤガヤワイワイ、あぐけに出たり入つたりでは、あまりにも自己本位な行為がひどすぎるのではないだろうか。その過剰な自己本位を、もつとも謙な言葉「社会性の欠如」と結論づけられてもいたし方ないのではなからうか、会をエンジョイするといふことは、やはり規律の中のエンジョイでなければならぬのではないか。

もち論我々は指導者としての至らなさを充分反省しなければならぬ、だがそれと同時に胸におぼえのある諸君はよく考えていただきたいと思う。

そして「社会性」うんぬんというような落伍者に「ひどい批判を受けたいですむよう努力していただきたいと思う。

(I・記)

明日のため

長田 文子

あらゆる病氣せぬものはなしと母の云ふ三百五十才の早産児なりしわれ

今日の為に明日があり、明日の為に今日がある、そして思い出がある昭和四年七月三十一日、出産間近の母が無理をしたため七ヶ月の早産児として私は生れた、生れつきひよわで真夏でも湯たんぽを三つも抱かせられ二才の誕生日を迎える頃はしかにかかり高熱のためひきつけ、それが現在の進歩した医学によつても全治不可能な弱性マヒを身に負う原因となつた。

幼き日様々の病院に連れ行かれし事が記憶の底に残れり

同時の日も歩ゆみ得ぬままあんず映く下にあそべり幼き日のわれ

幼き日の記憶は母の背に負われての病院通いに初める毎日東大病院への道すがらまだ若かつた母が痛顔を口吟みつつあつた馬場の切通しの坂を雨の日も風の日も三年余りマッサージの治療に通ひ続けた努力はたゞと頭が下る。

母が押す乳車にて新入大学の友見送りし日の日は下る

便利

青い芝の会の皆様お目出度うございます。私も元気で昭和三十七年の正月を迎える事が出来ました。これも父母の深い愛情と理解によつて良き正月を迎えられるわけで感謝のほかりません。又昨年の二大署名運動には理解ある近所の人々と私の友人Nさんはじめ築地電報局の皆様達が署名をしてくださいました。この人々の恩に報いる為にも一日も早くこの運動が成功しますよう幹部の方々の努力をお願い致します。私は昨年の暮までは恥ずかしいけれど本文書でした。それは何故かと云えば、CP重慶という重い障害で学校にも行けませんでしたので「かたかな」ぐらいしか読めませんでした。幸いにもお二階に居る私と同年の築地電報局勤務のNさんが私に深い理解と愛情を持ってくれ、私の良き友人として又相談相手になつてくれましたが、ある時私が勉強したいと洩らしたところから勉強の面倒をみてくれることになりました。そうして一年の月日がたち、その間よく勉強を教えられ、CP特有の言語障害ならびに本を読む時ツバキがどうしても飛び散つて先生の顔にかゝる時にも嫌な顔一つせず、又本を一頁読むのに私は一時間位かゝるのですが、その間気長に一言一句教えてくれ、又私の人生上の相談や私の

セーラ服着たしと母を困らせし記憶も遠く二十年を経ぬ

母と兄がわが教員にて文字ばんのカタカナの文字指さして問う

小学校の教科書を手にも兄に文字をたらい十二才の頃不自由な手で初めて文字を書けた時のあの感激あの嬉しさはいまも忘れられません。私の成長につれて戦争も背烈をきわめ演説も中断せざるを得なくなつてしまつたのです。ある深き富士にまつわる西雲消えゆくまでの富士の峰白し

昭和二十年母の故里に疎開静かな南アルプスの麓で朝夕仰ぐ富士の美しさに深く感動して自己流ながら初めて撮らしきものを作り初めノートに歌を綴る事によつて私の心の悩みも不満も喜びに変える事が出来たのです。何時までもお下髪でいたしわが心甘えていたし母のひざへに

父の背に負われていづる春の土手わが手に摘みし名も知らぬ草

雨の中に激ふる人の影が見ゆ視野遠き丘の甘露如に

震もなく風静まりぬハツ岳峯の白雪夕日に映えて

思い多き乙女の日々を四年住みし別れ惜まる母の故郷

昭和二十二年練馬地より帰京  
帰京はしたものの洋服帯の父の昔のお母

悲しみや喜びを共に嘆き喜んでくれるのです。その結果お隣様で新聞の見出しぐらひは読めるようになりました。このような人が私のそばに居る事は私の人生にとつて輝かしい幸福をもたらすことだろうと思うのです。この喜びを青い芝の会の皆様に分ち合いたいのです。

それから私は青い芝の機関紙を楽しみに毎号来るのを待つてゐる一人です。それは競争の重い者にとつては皆様のとの接触はこの機関紙が一つの機会であるからです。機関紙に載る皆様の生活や体験や運動がとて参考になります。それを見る私の努力が未だ足りぬ事がよく判ります。私も今年は何となくと努力したいと思つて居ります。

それからこれは四周年記念特別券の中で「白土さんの死に思う」という何編かの文を読んで感じた事ですが、その中である人の文に宗教問題について書いてありました。その文には私は同感できませぬ。「宗教は何方何千とあるが幸福になる宗教は唯一なのである」と書いてありますが、これを眺むと如何にもキリスト教が低級でS会が世界に一つの高級な宗教と思われ、又白土さんがいかにキリスト教に入つたから死んだ、S会に入れば自殺をしなかつたというような印象を受けるのですが、果してそうでしょうか。私はそれは疑問だと思ふ。例えどの宗教

意先は何れも難敷し新しく出発せねばならず、その日から親子三人の苦しい生活が初まつた。

われも又よそほひて見たし渾一描く乙女の繪姿白壁に映ゆ

こがれたつたのかも知れませんが、左手にわずかに残る自由を愛ほしみつ今日もペンを持つ

私は心の謙として、歌にたつ不自由な左手にペンを記し、歌にたつ歌認められない歌を日々綴つて行つた。

幼児の澄める瞳にみつめられ音が心清らかに洗われし如

昭和二十七年高校生の雑誌「いづみ」に思いがけず初入選、歌に生きるよろこびと決意をかたくした。翌二十八年知人の紹介により新潟短歌に入会、八木先生の御指導を受け意欲もやしたのですが、庭先にすら一人で下りる事の出来ない私の唯一の悩みは視野のせまさと歌材の少なさでたびたびいきまづるのです。然し政岡子規の歌や俳句を讀む事によつて大きな慰めを得られた。

訂正とおわび

先号の記事中、次のものがまちがつておりますので、讀んで訂正しておわび致します。

「会員消息の中で、長田文子さんの歌集の定価は三〇〇円でありました。」

「先号に二十一号として発行しましたが今回のものが二十一号でありましたので改めて二十一号を発行致します。」

て入るうと云ふ事、その人の置かれてある生活環境又は精神の境遇によつて生か死か決まると思ふのです。私は白土さんが何故命を絶つたかは知らない。おそらく家族の方にも本当の理由は判らないでしょう。又キリスト教に入つたから今まで生命を保つて出たのかも知れない。私は信仰に入らうと入るまいと死ぬということはその人の心の判断によつて決まると思ふ。たと信仰に入つて人は入らない人よりも安らかな気持になる事が出来ると思ふ。だから信仰がどんな信仰でもある人から見れば高級だと思われ、又二〇世紀の今日信仰なんて非科学的だといふ人もいます。特に自分が信仰している宗教がいかに高級なように見え、その信仰を皆に分ち合いたいと思ふのでしようが、それは危険な事だと思ふ。この人の文の最後に「僕は心の底から芝の会の全員がS会に入信することを望みます」という事が書いてありますが、こういう事は会の性格上非常に危険だと思ふ。単に宗教的問題だけなく今の世界の考え方も、大きく云えば米、ソの対立も自分の属しているグループの考え方を他の者に押しつけようとして居る所から来ていると思ふのです。そういう事はやめた方が良くと思ふ。本当にその属しているサドルの考え方が正しければ押しつけなくてもやがてそ

ういう考え方が繁榮して低級なものは一  
時は榮えていても、いずれ滅びて行くで  
しょう。又いろいろな問題について迷惑  
が多いでしょうが、山北会長始め幹部の  
方々の健全な態度によつて「会」を守つ  
て頂きたいと思ひます。なお誤解がある  
と困りますから申して置きますが、私は  
どの宗教にも属してはいません。そうか  
と言つて唯物論者でもありません。  
最後に話の進めですが、会費の値上げに  
ついては、私はあと十円か二十円位は値  
上げして、その代り出来るなら毎月機関  
紙を發行して頂きたいと思ひます。  
会費が大変遅れてすみません。二百円を  
お送り致します。去年の十一月から今年  
の五月までの会費です。どうぞお受取り  
下さい。皆様が集つた時記念写真でも撮  
つてお送り下さい。  
山北会長の今年の活潑な運動と芝の会の  
発展を期待致して戻ります。

品川区西大崎四ノ七五七  
永井 達夫

山北不二子さんの「現代女流歌人大鑑」  
に採録された短歌。  
悪魔めく女の笑い眞實にて我は独りの  
想いに籠る  
さまざまな死の計画が角度変え虚無に  
親しむ我と並べり  
いくばくが「お晴らしきこと」白き歌  
に輝いて並ぶるぞえとなせり

井上 健

目覚して起き、洗顔し、身支度をと  
り衣を出る。外灯のあたりがなければ、  
まだいきかう牛乳配達夫の顔さえ見えな  
い。はだ寒いというより、防寒してない  
顔は痛さを感じるこの二、三日のきびし  
さだ。おそろく氷点下だろう。魚鱗の胸  
にしまつてある台を出し新聞、雑誌を並  
べ、周りにビラを張る。駅の時計は六時  
を少し廻つてゐる。もう一番のお客さん  
が来る。毎朝決つてこの時刻に来る魚河  
岸行のおじさんだ。顔をみて「この人は  
報知」「この人は朝日」とわかる。おな  
じみさんは相当いる。(勿論氏名は知  
らない)大層撲も終盤に入つてスポーツ  
紙の売上げは日毎に増す。用意してきた  
マキをたき、多少感じがたぶくなつた手  
を暖める。文字通りの「火が何よりの御  
馳走」だ。けれども次々来るお客さんで  
そうはあつていられない。

わたしがこの仕事をやり始めたのは三  
年前春だつた、別段力も、技術も、資本  
もいらず誰にでも出来る新聞の立売りと  
いうこの仕事。たゞ一度に三、四人の  
お客をさばかたければならないことや、  
すばやくつり銭を出さなければならぬ  
ことがある。特に場所が踏み切りわきな

心の願ひ  
土浦市 喜古 愛子

今朝も私は、めぐみの手を引いて学校へ  
急ぎました。校門の中で近所の子供さん  
を見て、めぐみも健康に恵まれていた  
らあの子の様に元氣にはおたりしやべつ  
たり出来たのにと思つた。青い芝に  
を思わすつたわりました。青い芝に入  
させて載せて半生色々と学ぶ事が出来  
ました。何んともいふ暇性マヒ、私は今更  
おどろきました。始めて自分の子によつて  
目覚めた私です。世の中には関係あるな  
しにかゝらわらず援助して下さる多くの方  
々に私は敬服致しました。まして、めぐ  
みの母である私が、無関心でいられま  
しよるか、めぐみ故未知の世界を知り  
しみにあたりしは我によきことなり、  
此によりて我なんじの律法をまなびえ  
たり(聖書の中より)私に与えられた使命  
を感じるこの頃です。青い芝のため……  
めぐみのため……限りある力を惜しまず  
ない知恵をしぼつて、社会から開放され  
ている、障害者の幸を願ひ理想に向つて  
私の情熱は消える事を知りません。月に  
一、二度折本さんと逢う度に早く茨城に  
も光明学校と同じ様な施設を作り度  
夜のふけるのも忘れ主人と三人で十二時  
一時近く話に花を咲かせる事幾度となく  
……又今日は何処の会合、この次は何日  
と河を重れる事によつて益々よい経験と  
なり、私共のオアシスであり明日への勇

誌上自己紹介

池田よし子(三三才)

私は、今父母と三人暮らしです。私の  
毎日はミン仕事をしております。仕事  
のたい時は、読書をしたり、ステレオで  
音楽をきいたり、テレビをみたりす  
ごしております。会員の皆様どうか文通  
の友達になつて下さいませ。そして、  
いろいろと体験話をおききしたいと思  
います。どうぞ今後よろしくお導き下さ  
るようお願いいたします。  
(茨城県大洗町大貫八六)

新井 宏(二六才)

私たちの「青い芝」が生えてから、  
四周年をすぎました。最初は良く例会そ  
の他に顔を出していましたが、この二年  
位は全然ごぶさたしています。会員とし  
て非常に申しわけなく思つております。  
今は、身体障害者の工場でアガベ作業所  
に金沢(英)さんの浅見さんと一緒に働  
いています。この工場は段ボールの紙器  
製造している所です。そして、夜は普通  
の高校に通つています。  
(東京都板橋区中台町二八〇四)

(詩) 柳川

秋山 和明

私の好きな町柳川  
白秋の古里柳川  
水郷の町柳川  
白秋は廢市といつた  
ひつそりと死んだような町  
ものうい町  
網のペールにつつまれた町  
どこまでも入りくんだ水路  
堀どいにゆつたりと映く水ヒヤシンス  
水路を行く舟下りの船  
扇ぞいにたぶ古の家々  
家で針はこぶ娘の細い肩  
野葉を洗う細い指  
ふと目を上げる  
しづかに立つ赤レンガ  
なまこ壁  
カラ影絵のように  
いつかは消える無音の町  
私は行つたことがない  
一度やいい  
この町を歩けたら  
一完一

青い芝の会四周年をお祝いして

よこいとグループ  
大槻 久子

昭和三十六年十一月三日

青い芝の会四周年お目出とうございます。いつも御案内頂いても出席できないのが残念です。でもどうしてもお喜びを申し上げたいと思つてペンをとりました。みなさんよくがんばつていますね。私はあんまりみなさんのお顔をしりませんが名簿や会報をお送り頂くのでよく読んでいます。もうお逢いしたような気持ちになつてしまいます。又私共のグループでは丁度みなさんのお母さんと同じ位の年齢です。だからの方も同じように考えてしまふかも知れませんがおこらないで下さいね.....

グループにいられていろいろお話をしている自分の子どものように思われてしまいます。秋津療育園や、家庭のお子さんを一緒に訪問したり、一緒に仙台へ行つたりしていろいろの思い出があります。悲しい現実にとてもショックを受けましたね。一人々々の心の交りは本当にもろく支えのよわいことを感じました。でもちがいます。でもやっぱりハンディキャップに負けないで生き抜いているみなさん.....

んは本当につよく偉いと思います。お世辞でなくて感心しています。生きることがキカイのようなこの頃の社会では、自分の能力はよくわかりませんが、みなさん方は自分の事を知りぬいて力強く進んでいるのですからどうぞ今後がんばつて下さい。

地方の会員や、東京に住んでいても外出ができない人々を思い出します。又キャンプ、リクリエーションや話し合いに協力した奉仕グループの人々の心はよわくても遠く遠くまで通つています。カナダの小島泰子さん、私のお友達の小川さんは外国にお出でになりましたが、青い芝の会のことをいつも思つて下さい。この頃みなさんの住んでいる廻りの人々の考え方も少しづつ変わつて来たことをお感じではありませんか、社会の関心も深まつたことは青い芝の会の閉結が世の中の人の生き方をも変えることができるのですから経験をこれからもどんどん進んでやつて下さい。私共はうしろから応援をしていきます。脳性マヒセンターでも何でもつくられるように大いに運動して下さい。

では又お目にかゝるときをたのしみに一言御祝ひまで.....

祝電

- 四シユウネオメデ トウシツバノ
- イヨイヨコク、ミド リニナルコトラ
- ライノリマス
- ヒゴ ロノゴ カツド ウニタイシヨ
- コロカケイイヲハラフトモニマス
- マスカイノゴ ハツテンライイノル
- スギイ
- メツセイイジ

会長 田部 正行

貴「青い芝の会」の結成四年を祝し、今後の御発展をお祈り致します。推定三十万人といわれる全国の脳性マヒ者の福祉の促進の為に今後共大いなる歩みを進められます様祈つてやみません。当会も同じ目的の遂行の為に一層努力する事を期し、簡略ながらお祝の意をお伝え致します。お互に頑張りますよう。

脳性マヒ者の集い  
ひかりの会

広島市舟入川口町三九五 田部方

これらの御祝の御言葉は、大会の時に頂いたのです。前回は紙面の都合によつてこゝに慎んで乗せさせて頂きました。

今堀 健一

会友の皆様お元気ですか。寒いですが、相変わらず御無沙汰ばかり.....。地方会員で何もお手配できないのが本当に残念です。その上、昨年から目を悪くして投稿もできない有様、どうもいけません。しかし、大阪に本部のある「まごころの集い」には出席しているんですよ。歌集を出版された長田文子さんのお名前も見られます。青い芝の御発展をお祈りしています。さようなら。

(大阪市阿倍野区天王寺町北三十九七)

千葉友の会に出席して

和 田 光 司

去る一月十三日の成人の日千葉県八日市場の身障者の会、友の会の新年会があった。この会は会員五十数名の会で、脳性マヒはわずか数名しかないが、とても活潑にやつているようだ。この会での主な仕事は結婚相談部がある事だろう。青い芝もこのような会と横のつながりをもつと強化しなければと痛感しつつ帰途についた。

「六輪会」によつて本会のために慈善公演が催されて以来、本会のために何かとお心にかけていて下さる森春子様が、昨年十一月に本会の後援会をなさるうとのお考えで親しい方々にその事を話され、森春子様他四人の方々がその後援会の発起人となられました。そして早速、その森春子様他四人の方々が昨年十一月から毎月一人一千元ずつ会の財政援助をして下さつています。

これは会として真にこの上なく有難く喜ばしい事です。私たちもこの御厚情を無にしないようしつかり頑張らなければならぬと思ひます。 (山北)

- 森永商事社長殿 柳沢小松 様
- 金井織代 様 平山朝子 様
- 松井義子 様 市川茂夫 様
- 田園調布教会 三井秀武 様
- 同 婦人会 様

CPが働く喜びの影

塩田 はつ

湘南支部の皆さまお元気ですか、会の活躍も延び延びになつてしまいましたこと深くお喜びいたします。私も一般事業

CPが働く喜びの影

した。私が働くことは私の意志でもなく、家の生計のためにもなく身障者雇用促進法の神奈川県民生部の事業の一環としての手伝に過ぎません。私を社会的に此処まで育てて下さいます。神奈川県婦人相談所次長の柳下慈明先生のお蔭です。特にCPの更生及び雇用問題は難しく世論調査へ忍耐力和CPの更生PRのテストモデルとしての重大な任務を負わされております。多くの同じ苦しみを持つ友の幸せを祈つて精一杯働いておられます。私の軽度のCPでも他の障害者と比較して不気味な衰状と機能障害のために何か手足の動きがにぶる健全者と肩を並べての作業は並大抵なことではなく能率向上のため、自身のエネルギーを絞り気苦労も多く身心共に疲れ家へ帰れば寝ることが楽しみです。一部の上役の理解はありますが、健全者の要領の良さに決志の努力も消えてしまいますことも多く、CPの暗い隣だと思ひます。此処で朝起きて私の恥とお世話下さいました神奈川県身体障害者更生相談所ケースワーカーに申し訳なくCP全般にわたつての一般的専門的にも悪い影響を残しますので、もう一度頑張りますつもりです。要領の良い健全者と軽度のCPの製品の出来高と作業態度、一部ではなく全員大くは社会全般に理解して頂けるよう頑張ります。これも青い芝の会員の使命と思ひます。

